



新学術領域研究

「福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究」にA⁺評価

日本学術振興会は1月26日、「平成29年度『新学術領域研究（研究領域提案型）』中間・事後評価に係る領域代表者からの報告・科学研究費補助金審査部会における所見」を発表し、研究領域「福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態に関する学際的研究」がA⁺評価を頂きました。

評価について

A⁻、A、A⁺の3段階で評価されます。その概要は、A⁻：研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる。A：研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった。A⁺：研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった。とされます。

本研究領域についての所見

本研究領域は、2011年3月に起こった東日本大震災の際に、日本が直面した福島原発事故により放出された放射性核種の移行の全体像を明らかにすることを目的として、事故が起こった翌年に発足した研究領域である。従来の新学術領域研究の多くは異なる研究領域を統合し、事前に入念に計画を立てて進めるものであるのに対し、本研究領域は進行中の様々な問題をトップダウンではなくボトムアップ的に正確に捉えて柔軟に対応し、学術的に質の高い成果を生み出してきたという点で高く評価できる。

中間評価結果の所見において指摘されていた一部の研究班に遅れが見られた点については、領域外からの異分野の専門家の招へいや、領域内における他研究班との連携強化によって新規手法を確立することなどにより、適切に対応されていた。研究結果として、一つ一つの研究成果が非常に優れており、顕著な研究成果も多々見受けられた。また、計画研究の連携も効果的に機能しており、若手研究者の成長を目的とした研修プログラムなど、意義のある活動が成功裡に実行されたことは高く評価できる。また、TV報道や新聞報道などのメディアを利用したアウトリーチ活動も実施され、国内外の関心を引きつけたことも評価に値する。包括的な日英の書籍の刊行に貢献することなどにより、新たな研

究領域の確立に成功している。本研究領域が目標とするところに対する社会的関心の高さと重要性に鑑みれば、これからも本研究領域全体の成果を適宜取りまとめ、社会に向けて力強く発信していく努力を継続されることが望まれる。(全文を【文部科学省】平成29年度「新学術領域研究(研究領域提案型)」中間・事後評価に係る領域代表者からの報告・科学研究費補助金審査部会における所見(P61, 62)から引用しました)

評価を受けて

多くの協力研究者の皆様からお言葉を頂戴いたしました。

素晴らしい評価を受けましたね。これも多分野にわたる数多くの研究者の努力と恩田さんの代表者としての取りまとめとの賜物だと思います。この評価をもって、さらに今後の研究が進むことを願っております。

(東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター センター長・教授 植松 光夫様)

素晴らしい結果を得たことおめでとうございます。この分野が新たな学問分野として定着することを期待しています。

(千代田テクノル大洗研究所 柴田徳思様)

吉報ありがとうございます。本プロジェクトに参画させていただき、我々の成果が評価されたのかと思ううれしく誇りに思います。異なる分野の一癖も二癖もある研究者を上手に統括され、オールジャパンの成果としてとりまとめられたことに敬意を表します。今後も福島のために引き続きご尽力されることをお祈りしております。

(JAMSTEC 本多様)

そして「ともに尽力いただいた皆様のおかげでこのような高評価を受けることができました。日本科学未来館で3月に開催される『原発事故から7年。放射能汚染の状況はどこまで回復したか。』と題するシンポジウムで、今回の研究成果を紹介したい。多くの人々に伝えることができたら」と感謝の意とともに、シンポジウムへの意気込みを語る恩田先生。「今後も皆様の協力を受け、進めてゆくことができれば」と言葉を寄せました。

参考リンク

- 【文部科学省】平成29年度事後評価対象研究領域一覧(22研究領域)
- 【文部科学省】平成29年度「新学術領域研究(研究領域提案型)」中間・事後評価に係る領域代表者からの報告・科学研究費補助金審査部会における所見(P61, 62)に掲載。PDF: 2,176KB)



今後の予定

- 福島原発事故による環境汚染研究とコミュニティの教訓をまとめた書籍（東大出版会、2014年）の刊行に貢献した。その英語版をケンブリッジ大学出版会より2018年中に刊行予定である。
- 日本科学未来館との連携を図り、2016年3月より、常設展示を行うことに加え、2018年3月10-11日には一般向けのシンポジウム開催を予定している。